

「岐阜と東京のかけ橋へ」

服部 英樹（岐阜市出身）



現在、私は千代田区の神田で妻と娘一人の3人暮らし。

神田に暮らし始めた当初は、「住む場所」というイメージはなく、1年程で少し離れた住宅の多い土地に移るつもりでいた。しかし、住んでみるとなんと居心地の良い土地柄であることか!!

神田の人は情に厚く、触れ合いを好む。近所との付き合いが密で、近

所のこともお風呂に入れたり、醤油を借りたり、賃貸マンションなのに忘年会があったりと田舎に住むような暮らしやすさである。いや、岐阜にいた時よりも近所づきあいが盛んな気がする。神田祭りにはじまり、千代田区の空手道教室、ママさんバレー等数え上げたらキリがないほど家族ぐるみで地元の人たちと触れ合っている。

さて、そんな大好きな街「神田」に事務所を構え、独立開業したのは7年前であるが、多くの人の支えの中でなんとかここまでやってこれた。2年前には岐阜市の父の事務所が創業55周年を迎えたことを機に合併税理士法人の東京事務所という位置づけに変わった。

税理士という職業柄、お客様は中小企業であるが、周知の通りその多くはこの不況下で苦境に立たされている。特に地方経済は、岐阜に限らず、より厳しい局面を迎えている。

こんな100年に一度の大不況の

中、都内の顧問先企業で、新しいビジネスモデルを創り上げ、3期連続で業績を上げているところがある。3年前に紹介で顧問先となったが、現在では全国から問い合わせが殺到している。当然西日本エリアからも多くあるが応えきれっていない。そこで岐阜の顧問先企業であるA社を紹介し、業務提携をすることになった。

岐阜のA社は、いつてみれば異業種に参入することになるのだが、A社の経営者は、既存のビジネスだけではこれからは厳しいだろうと感じており、新たな取り組みへ前向きであった。

一方、私はいえ、それぞれの経営者の想いや会社の歴史、現状などをよく把握していたので、2人を引き合わせてもつまづくであろうと確信していた。今ではそれぞれの経営者が密に連絡を取り合い、順調にビジネスが進んでいる。現在、岐阜でもそのビジネスが稼働し始めた。

ビジネスマッチングはとかく条件や、相手の決算書など表面的な尺度で判断しがちであるが、経営者の思考など全てを考慮しなければならぬ。企業と深くかかわっている会計事務所だからこそ、こういった

マッチングでお役に立てることを嬉しく思う。ましてや岐阜の企業へ貢献できたことは何よりも嬉しい。

不況だけでなく人口減少が続く以上、国内市場は基本的には徐々に小さくなっていく。既存のビジネスモデルが10年先、15年先も続けていけるかを経営者は常に考えなくてはならない。

東京と岐阜の両方に拠点を持つ会計事務所として、これからもそれぞれの街の中小企業の懸け橋となり、結果、その街の社会に貢献していきたいと考えている。



服部 英樹（はっとり ひでき）
税理士法人服部会計事務所
東京事務所長・税理士
1970年生まれ